

自己点検・評価報告書

点検対象月 2022 年 4 月～2023 年 3 月

報告書作成月 2023 年 6 月

ミッドリーム日本語学校

1. 教育理念・目的等

- 1 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか
- 2 1-2 学校の特色は出すことができているか
- 3 1-3 学校の将来構想を抱いているか
- 4 1-4 理念に基づく教育が行われているか

2. 学校運営

- 5 2-1 運営方針は定められているか
- 6 2-2 事業計画は定められているか
- 7 2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか
- 8 2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか
- 9 2-5 情報システム化等による業務の効率化が図れているか
- 10 2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか
- 11 2-7 危機管理体制は整備されているか
- 12 2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できているか

3. 教職員

- 13 3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか
- 14 3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか
- 15 3-3 教職員評価を行っているか

4. 教育活動

- 16 4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか
- 17 4-2 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 18 4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか
- 19 4-4 成績評価は適切に行われているか
- 20 4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか

5. 学校支援

- 21 5-1 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 22 5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 23 5-3 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか

- 24 5-4 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
- 25 5-5 保護者と適切に連携しているか
- 26 5-6 卒業生への支援体制はあるか

6. 在籍管理と生活指導

- 27 6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか
- 28 6-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか
- 29 6-3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか
- 30 6-4 常に最新の学生情報を把握しているか

7. 学生の募集と受け入れ

- 31 7-1 学生の受入方針は定められているか
- 32 7-2 学生募集活動は、適正に行われているか
- 33 7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 34 7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか
- 35 7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか

8. 財務

- 36 8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 37 8-2 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか
- 38 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか
- 39 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか

9. 法令などの遵守

- 40 9-1 法令、設置基準等の遵守と適切な運営がなされているか
- 41 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか
- 42 9-3 自己点検・自己評価の実施と改善に努めているか

10. 社会貢献

- 43 10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

1. 教育理念・目的等

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

		評 価 項 目	評 価
1	1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2	1-2	学校の特色は出すことができているか	5
3	1-3	学校の将来構想を抱いているか	4
4	1-4	理念に基づく教育が行われているか	3

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

「日本社会に適合し、活躍できる人材を育成する」ことをミッションとし、教育目標を「自立・自主・自助」を掲げている。この教育目標を達成することで、学習をはじめとする様々な物事に主体的に取り組むことができるようになり、それが日本社会を生き抜いていく力になると信じ、日々教育に励んでいる。

また、特色としては「希望進路別に特化したカリキュラム」を用意し、生徒のニーズにあった教育をしていることが挙げられる。特に美術系の高等教育機関を希望する生徒を積極的に募集し、それに適用したカリキュラムを用意している。

もう一つの特色としては、全校生徒にタブレット端末を配布して行う ICT 教育が挙げられる。本校オリジナルのアプリを開発し、2020 年 7 月から全校生徒にタブレットを配布し、ICT 教育の導入を推し進めている。

理念に基づいた教育については、教職員の「自立・自主・自助」に対する理解度に差があり、学校全体として十分に生徒に指導できているとは言えない状態であるため「3」とした。まずは、教職員が率先して「自立・自主・自助」を体現し、生徒に教育していくことができるよう努めていきたい。

2. 学校運営

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

		評 価 項 目	評 価
5	2-1	運営方針は定められているか	5
6	2-2	事業計画は定められているか	4
7	2-3	運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	4
8	2-4	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
9	2-5	情報システム化等による業務の効率化が図れているか	5
10	2-6	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	4
11	2-7	危機管理体制は整備されているか	4
12	2-8	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できているか	4

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

役職と役割を明確に定め、それに従った組織運営を行うことができている。部署ごとの会議を定期的に行い、計画的な運営が行えている。

課題としては、部署ごとの連携が挙げられる。現在、事務、進路指導、教務の3つの部署に分けて学校運営を行っているが、各部署での業務や方針について、他部署との意識共有が図れていないところがある。今後は、部署長による定例会議の実施などを行い、密に連携と意思疎通を図っていく必要がある。

また、情報管理システムについては当校独自に開発をしたシステムを2018年度から導入しており、情報管理と共有が十分にできるようになった。情報が一か所に集められ、かつ検索性と一覧性に優れているため、効果的に情報が共有され、学生指導にも大きく役立っている。

2021年度に、日本語教育振興協会が実施する「教育活動評価」の更新評価を受け、客観的に自校の強みと課題について認識することができた。この課題については、2022年度に概ね改善に着手ができた。現在も改善を継続中である。

3. 教職員

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

		評価項目	評価
13	3-1	教育理念・目的が教職員間で共有されているか	3
14	3-2	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	5
15	3-3	教職員評価を行っているか	4

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

本校では教育理念・目的について、教員会議および職員全体会議で確認し共有する取り組みを行っている。特に非常勤講師は毎学期新しいメンバーが加わるため、教育理念等が浸透するよう、個別に質問を受けるなどの対応をしている。ただし、日々の業務ですべての職員が教育理念・目的を念頭に職務に当たっているかという点と不十分な点がある。また、教育目標である「自立・自主・自助」に対する理解度に教職員によって差があり、学校全体として十分に生徒に指導できているとは言えない状態であるため「3」とした。

教育の質の向上についての取り組みとしては、主に、定期的を開催する教員研修や勉強会と、専任教員による授業見学を実施している。

教員研修、勉強会については、「新任講師研修」や「タブレット研修」のような業務上必須のものから、教員の知識・技能・態度を高めるためのブラッシュアップ研修まで幅広く行っている。

授業見学については、授業後にフィードバックを行い、個々の授業レベルに応じた指導・アドバイスをを行っている。この授業見学は複数の専任教員が共に行うようにしており、評価と指導内容の均一化を図っている。また、評価・指導のための授業見学だけではなく、教員同士の学び合いのための授業見学も推奨しており、相互研鑽の場を提供するよう努めている。

教職員評価は、評価項目を開示し、それぞれの教職員が各自で目標を立てられる仕組みを整えている。また評価結果についても、上司による面談で各職員に達成できている部分と今後の課題を明示的に伝えるようにしている。

4. 教育活動

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

		評 価 項 目	評 価
16	4-1	カリキュラムは体系的に編成されているか	5
17	4-2	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
18	4-3	目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	5
19	4-4	成績評価は適切に行われているか	4
20	4-5	各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	4

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

カリキュラムは入学時期および進学目的に合わせて体系的に整えている。加えて、非漢字圏の学生に合わせた特別な進度設定も行い、多様化する学習者が無理なく学習を進める仕組みを構築している。また、2年目の学生については目的別のクラス編成をしており、それに対応できる教員採用も行えている。

成績評価は学校全体で統一した基準を設け、試験の結果と授業態度・課題提出率などをもとにクラス担任が公正に行っている。今後の課題は、会話力の評価など数値化しづらい項目のクラスごとの評価のばらつきを極力ゼロに近づける仕組みづくりである。

授業評価は、専任教員および主任教員、校長による授業見学を定期的の実施することで、評価と今後の課題の確認を行う体制を敷いている。

日本語能力試験、日本留学試験の対策に関しては、対策問題集を教材として採用し、日々の授業の中で適切に指導に当たっている。特に日本留学試験に関しては、受験を必要とする学生に対し、それぞれのレベルに合わせた解き方の指導を徹底して行っている。また、両試験の模擬試験を定期的の実施することで、実力の確認を行っている。この模擬試験は外部の会場を借り、受験票を発行して行うことにより、本番の試験に近い環境での練習が行えている。

5. 学生支援

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

		評価項目	評価
21	5-1	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
22	5-2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
23	5-3	学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	4
24	5-4	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4
25	5-5	保護者と適切に連携しているか	4
26	5-6	卒業生への支援体制はあるか	2

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

本校では大学院・大学・専門学校と希望進路別にクラスを分け、それぞれの進路に合った進学指導を体系的に行えている。また、進路指導部という進路指導に専念する部署がある。この部署の専門指導員は母語で進路指導を行っており、学生の日本語能力に関係なく指導できる体制を整えている。

学生相談についても各国語で対応できる職員を置き、生徒が困った時や将来についていつでも相談できるよう母国語で直接または通訳で行っている。また SNS でいつでも母国語で相談できるような状態にしている。

学生寮については、特に需要がないため用意していない。住居については、入国前に留学エージェントが賃貸住宅を紹介している。また、入国後も学校と留学エージェントが連携して住居の紹介や相談に乗れる体制になっている。

保護者との連携については、申請時及び入学時に保護者の連絡先として電話番号・SNS を学生に提示させ、問題発生時にすぐ連絡が取れるようにしている。

本校では卒業後のサポートとして行なっていることは在留資格更新の指導のみである。特別な支援体制はなく、進学先の教育機関に一任をしている。

6. 在籍管理と生活指導

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

		評 価 項 目	評 価
27	6-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	5
28	6-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
29	6-3	我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	5
30	6-4	常に最新の学生情報を把握しているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

入国・在留関係の管理・指導と支援は入学時のオリエンテーションをはじめ、SNS 等を通し随時お知らせし、指導・支援を行なっている。特に在留資格に関わる知識は、日本での生活を送るためには必要不可欠であるため、丁寧な説明と指導を心がけている。

入管法をはじめとする法令順守の指導は順調に行えている。結果として、毎年適正校である旨を東京出入国在留管理局から受け取れている。2022 年 10 月の通知では、問題学生数の割合が「0.00%」であった。

学生の情報については、3か月に1度の定期面談と、その他に必要なに応じて行う不定期面談を通して、把握するよう努めている。また、1 ヶ月に一度出席不良の学生を割り出し、その学生の近況等をヒアリングして面談記録として残している。

7. 学生の募集と受け入れ

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

		評 価 項 目	評 価
31	7-1	学生の受入方針は定められているか	4
32	7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	5
33	7-3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5
34	7-4	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
35	7-5	適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

学生の受入方針については、各国の担当者が募集基準を作成し、足切り条件を設けると同時にどのような学生をどのくらいの人数受け入れるのか、比率を設定している。

学生の募集については、担当者が直接現地で面接をするか、SNS 等を通し面接を行なっている。その際、目的意識、経費支弁能力、勉学意欲の確認に加え、本人の目的に応じたアドバイスも同時に行い、ビジョンを持った状態で日本に来させるよう努めている。

2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、入国規制等が行われていた。そのため、募集した学生は入国することができなかったが、2022 年度は順調に学生募集が行え、生徒定員に対して適切な学生数を募集することができた。

2023 年 1 月末時点 在籍者数 656 名 / 定員 890 名

入国規制により 2021 年度生が 0 名である中、2022 年度生のみで定員の 7 割以上を満たせた。

2023 年度生が入学する枠も空けておかねばならないことを考えると、ちょうど良い生徒数にすることができた。

8. 財務

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

		評 価 項 目	評 価
36	8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
37	8-2	予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	5
38	8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	5
39	8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

綿密な事業計画、及び毎月の予算管理を行うことにより財務基盤は年を追うごとに安定してきている。その一つの要因として、2017年に自社保有の新規校舎を確保したことで、2018年10月には学生数を増員(定員890名)できたことが挙げられる。

このように安定した学校経営を継続してきていたが、2020年度から2021年度は新型コロナウイルス感染症による入国規制で、学生が入国できなくなり財政に大きな影響があった。この2年間は単年では赤字であったが、2019年までの安定した財務状況が功を奏し、学校経営が傾くことなく、入国規制の時期をやり過ごすことができた。

2022年度は入国規制が解除され、新入生を迎え入れることができ、単年赤字を回避することができた。

9. 法令などの遵守

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

		評 価 項 目	評 価
40	9-1	法令、設置基準等の遵守と適切な運営がなされているか	5
41	9-2	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4
42	9-3	自己点検・自己評価の実施と改善に努めているか	5

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

法務省から適正校に選定されており、法務省の告示基準に則り、(一財)日本語教育振興協会の加盟校として定期的に認定期間更新の審査を受けている。事務処理マニュアルに従い、漏れなく関係省庁への報告を行っている。

個人情報保護委員会を設け、個人情報保護に関する規定を整備しつつある。学生、教職員、その他個人に係る個人情報の扱いやホームページなどで個人が特定されないよう対策処理を行っている。個人情報管理と処理方法についてのマニュアルを作成し、教職員への研修を通して意識の共有化を図っているが、全ての教職員が高い意識で管理できているとは言えないため、「4」とした。

自己点検・評価については、毎年4月～6月の間に前年度の1年間を点検している。評価は複数の部署の人員が関わり、なるべく多角的な視点を確保するように努めている。自己点検・評価の結果は毎年6月末に学校HPで公開をしている。

10. 社会貢献

5…十分にできている 4…概ね達成できている

3…解決すべき課題は多いが、取り組んでいる 2…できていないことが多い 1…全くできていない

		評 価 項 目	評 価
43	10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4

【現状 / 具体的な取り組み / 課題】

「地域と持続可能な共生」という考えのもと、地域の方々との交流の機会を多く持ち、相互理解を深めることを目的に、新宿区主催の行事にボランティアとして留学生に参加させている。

日本語教育に興味がある大学生や大学院生の授業見学を受け入れ、大学 3 年生向けのインターンシップを毎年実施している。日本語教育に興味がある学生に日本語教育の現場を体験する場を提供することは、日本語教育業界の発展に寄与するものであると考えている。2022 年度は、26 名の大学生が当校の授業見学やインターンシップに参加した。

(一財)日本語教育振興協会が文化庁から委託されて実施している「主任教員研修」には、当校の校長が実施委員・講師として関わっており、日本語教育業界全体の人材育成にも一定の貢献できていると考えている。